1．科目名（単位数）	こどもと造形（2 単位）	3．科目番号	
2．授業担当教員	井戸川　敦		
4．授業形態	演習、講義	5．開講学期	秋期
6．履修条件・他科目との関係			
7．講義概要	本授業では、領域「表現」のなかの「造形」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には以下の事項について学ぶ。 ① 乳幼児の造形による表現の姿や、その発達を理解する。 ② 造形による様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。		
8．学習目標	1）乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2）造形を生成する過程について理解している。 3）乳幼児の素朴な造形を通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。 4）様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることできる。 5）身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。 6）表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 7）協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 8）様々な造形による表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。		
9．アサイメント（宿題）及びレポート課題	ⅰ．毎時の授業において製作する作品を提出課題とする。 ⅱ．製作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 ⅲ．鑑賞として、授業における取り組みの成果の発表を行う時間を設ける。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。		
10．教科書・参考書・教材	【教科書】槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 また授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 【参考書】 「幼稚園教育要領」平成 29 年告示文部科学省 「幼稚園教育要領解説」平成 30 年 3 月文部科学省 「保育所保育指針解説」平成 30 年 3 月厚生労働省編 【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時や事前の授業で指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。		
11．成績評価の規準と評定の方法	◯成績評価の規準 1.子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がついたか。 2.子どもの造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。 3.子どもの豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。 ◯評定の方法 授業への取り組み、製作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1.授業への積極的参加　総合点の 30% 2.日常の学習状況及び自己課題への取り組み　総合点の 20% 3.製作や鑑賞活動の成果（課題等）　総合点の 30% 4.作品発表、レポート等　総合点の 20%		
12．受講生へのメッセージ	造形指導者として子どもの柔軟な感性に対応していくためには、様々な素材に親しみ、豊かな造形体験が必要である。本講義では造形活動の指導・実践に必要な材料・用具の取り扱いについて理解するとともに、造形の基礎技能の習得を図る。また、造形活動で用いられる基本的用具（絵の具・クレヨン等）の扱い方と、材料の特性を活かした多様な表現、また安全指導などについて学んでいく。幼・保・小学校の連続性を視野に入れた絵画・造形の発達段階について理解を深めていく。 【注意事項】 1．造形活動で用いられる様々な材料･用具（絵の具・クレヨン・画用紙・粘土等）は、各自が準備すること。授業内で随時伝えていく。 2．絵の具などを使用するため、汚れてもよい服装で出席すること。		
13．オフィスアワー	授業前後の空き時間等（メールなどで事前にご連絡ください）		

14．授業展開及び授業内容

講義日程	授業内容	学習課題	
第１回	◇ オリエンテーション 授業についての説明と、今後の授業を踏まえて、映像資料を利用した子どもの造形表現の鑑賞	事前学習	教科書を一通り確認しておく。 また、自身の図画工作や美術の授業を振り返り印象深かった出来事について考える。そしてそれを踏まえ、自身が保育士になった際に子どもたちが豊かに、造形表現ができる環境設定を考える。
		事後学習	自身の子どもの頃からの製作活動を振り返り、思ったこと考えたことをまとめる。
第２回	◇ 造形表現の基礎（演習）	事前学習	これまでの描画経験を振り返り、描画の基本

	素材の特徴をいかして表現する		について考える。基本的な道具の使用法を復習し、今後表現するための基盤とする。
		事後学習	授業で学んだ内容を振り返り、各自で準備した対象（モチーフ）を描いてみる。
第３回	◇ 子どもの造形表現の研究Ⅰ （講義＋演習） モダンテクニックによる表現 （デカルコマニー・糸引き絵・ドリッピング・吹き絵）	事前学習	教科書、第４章−１を読む。 絵の具を用いた製作活動の経験を振り返り、印象深かった作品（自身のものでも作家のものでも構わない）を書き出す。製作に向けて、自分らしい色彩や表現について考え、構想をまとめる。
		事後学習	デカルコマニー・糸引き絵・ドリッピング・吹き絵による製作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。また上記の技法を使用した、子どもの造形活動への展開を考える。
第４回	◇ 子どもの造形表現の研究Ⅱ（演習） モダンテクニックによる表現 （バチック・クレヨンスクラッチ・コラージュ）	事前学習	筆を用いない描画の経験を振り返り、印象深かった作品（自身のものでも作家のものでも構わない）を書き出す。製作に向けてモチーフや資料を収集する。
		事後学習	バチック・クレヨンスクラッチ・コラージュによる製作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。また上記の技法を使用した、子どもの造形活動への展開を考える。
第５回	◇ 子どもの造形表現の研究Ⅲ （講義＋演習） ポップアップカードの製作 （パクパクカード・平行ボックスカード）	事前学習	教科書、第４章−２を読む。 ポップアップカードについて調べる。そして様々なポップアップカードのアイデアを書き出し、出来上がりのイメージとともに書き留める。
		事後学習	ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら製作に使用できそうなイメージを収集し、今回学習した技法を使用し作品を製作する。また実際の現場での利用の仕方を考える。
第６回	◇ 子どもの造形表現の研究 Ⅳ（演習） 版画による表現の研究（紙版画）	事前学習	後日影絵を製作するにあたり、画用紙やハサミなどの各種素材に慣れる。また紙版画の下絵アイデアを考える。
		事後学習	紙版画の製作活動を振り返り、保育士として子どもが活動する際に気をつけるべきポイントをまとめる。また紙版画の技法を使用し作品を製作する。
第７回	◇ 子どもの造形表現の研究Ⅴ （講義＋演習） 版画による表現の研究（紙版画）	事前学習	教科書、第４章−３を読む。 今後、画用紙と版画用インク（または絵の具）を使用し紙版画を製作する際、どのような工夫ができるかを考えアイデアを書き出す。
		事後学習	紙版画の製作活動を振り返り、授業内で製作する作品以外に、実際の現場での活動・イベントにどのように利用できるかを考えアイデアを書き留める。
第８回	◇ 素材研究 Ⅰ（演習） 廃材を利用した音の出るオモチャの製作	事前学習	空き容器など、身近にある素材（廃材）に目を向け、造形材料としての可能性について考える。身近な材料を利用した音の出るオモチャの製作に向け、作品アイデアに関する資料を収集する。
		事後学習	廃材を利用した製作活動を振り返る。他の学生が使用していた素材にも着目し、内容をまとめる。また今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第９回	◇ オンライン美術館（講義＋演習） Google Arts & Culture などの映像資料を利用した作品鑑賞	事前学習	教科書、第４章−４を読む。 中学校・高等学校において使用していた美術の教科書や web などを使用し、好きな作家・作品について調べる。その際に、その作品を好きだと感じる理由についても考える。
		事後学習	Google Arts & Culture などの映像資料を利用し、興味のある作家の作品について考えたこと感じたことをまとめる。また、キャプションの書き方などについて調べ、実際の現場

			での子どもの作品展示の方法や手法などについての応用を考える。
第１０回	◇ ICTを活用した造形表現の可能性を探る（グループワーク）Ⅰ （講義＋演習） 影絵による演劇のための準備	事前学習	教科書、第５章−１を読む。 影絵の製作方法を調べる。また参考になりそうな影絵劇を各種映像資料などで鑑賞し、今回製作する影絵のイメージを豊かにする。
		事後学習	映像資料により鑑賞した影絵劇から、影絵の動かし方やアテレコの具合など、気がついたポイントをまとまる。
第１１回	◇ ICTを活用した造形表現の可能性を探る（グループワーク）Ⅱ （講義＋演習） 影絵による演劇のための製作	事前学習	教科書、第５章−２を読む。 筆記用具やハサミ、糊などの素材の特徴を知る。その際、子どもが使用する際に気をつけるべきポイントを保育士の視点からまとめる。
		事後学習	決定した劇のテーマについて調べる。また実際に影絵を製作し、第 13 回で行う影絵劇のイメージを膨らませる。
第１２回	◇ ICTを活用した造形表現の可能性を探る（グループワーク）Ⅲ （講義＋演習） 影絵による演劇のための製作	事前学習	教科書、第５章−３を読む。 クラス全体で行う影絵劇に向けて自身の役割を理解する。また ICT を利用したコニュニケーションの可能性について web などを活用し調べる。
		事後学習	webや各種映像資料、また身の回りにあるデジタル機材などに興味を持ち、実際の現場での活用・応用を考える。
第１３回	◇ ICTを活用した造形表現の可能性を探る（グループワーク）Ⅳ （講義＋演習） 影絵による演劇の発表と録画・編集	事前学習	教科書、第５章−６を読む。 円滑に影絵劇を行うため、自身の役割だけではなく他の学生の役割についても観察し、理解する。
		事後学習	影絵劇を行ってみて、重要と思われるポイントをまとめる。また実際に子どもたちが活動し発表する際に、保育士として援助できる事柄をまとめる。
第１４回	◇ 素材研究（グループワーク）Ⅱ （演習） 各種素材を利用した任意の衣装の製作と発表	事前学習	任意の衣装の製作・発表に向けて、スケッチブックやノートにアイデアをまとめ、グループ内での意見交換に積極的に参加する。また製作に関する構想を練り、各自資料を収集する。
		事後学習	第 15 回の発表について構想をまとめる。また保育者の視点において、子どもが製作する際に注意することをまとめる。そして今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第１５回	◇ 素材研究（グループワーク）Ⅲ （講義＋演習） 各種素材を利用した任意の衣装の製作と発表	事前学習	教科書、第７章を読む。 作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。自身の作品を簡潔に伝えるためのキャッチフレーズを考える。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、自身の作品の良い特徴を認識する。【子どもと造形】の製作活動を振り返り、自身の作品やノートをまとめる。